

医療の質・安全チーム大賞（Quality & Safety Team Awards 2024）発表会

令和7年3月5日（水）16時から医療の質・安全チーム大賞（Quality & Safety Team Awards 2024）発表会が開催されました。

今年度は、11事例のエントリーがありました。

どの取組も、多職種による活動によりチームワークの成果がみられた事例ばかりでした。

全国労災病院の方々に「私たちもやってみたい。」「参考にしたい。」と思う3事例を選んでいただき、投票の結果、以下の3チームが選ばれました。



【受賞チーム紹介】

◆ 秋田労災病院「身体拘束最小化に向けた認知症ケアチーム」

「身体的拘束最小化に向けた認知症ケア」

—抑制帯使用の代替として「認知症マフ」を活用する—



☆受賞のコメント☆

この取組で、「認知症患者のカテーテル類自己抜去予防のためにできることは、身体的拘束以外にもある。」ということが明らかになりました。

認知症マフが今後も活用され普及していくことを願っています。

◆ 横浜労災病院「看護チーム」

「麻薬管理の簡易化を目指した取り組み（第1報）」

—レスキュー薬用の麻薬カウント袋の開発—



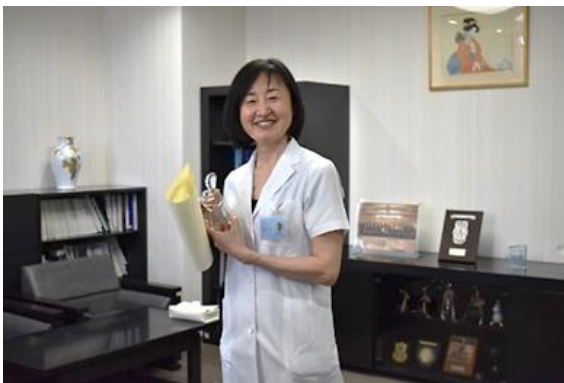
☆受賞のコメント☆

麻薬カウント袋は、看護チームの皆さんの協力を得ながら開発を目指し、5年かけて完成しました。

日本全国の看護師を楽にしたいという強い思いがあります。ディスポーザブル化も目指しています。



- ◆ 横浜労災病院「中央検査採血 WG チーム」
「採血業務の質及び安全向上に向けた取り組み」



☆受賞のコメント☆

患者にとってよい採血室、職員にとって働きやすい採血室を目指して取り組みました。

この取組が、当初は意識していなかった医療の質・安全の向上につながるのだと気づくことができました。